

# いえしまDays

7月25日(月) ~ 7月27日(水)

IN 兵庫県立いえしま自然体験センター

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	食材探し・釣り	振り返り
2日目	自給自足生活	自給自足生活	振り返り
3日目	清掃	施設を出発・解散	

## 一日目：

今回のキャンプはプログラムの立案を本人達に任せ、食事、睡眠、入浴、遊びを全て自分達で決めてもらいます。各集合場所から三ノ宮に集合し、そこから更に移動を重ね、姫路港へ到着しました。長時間の移動にお疲れの色が見えていましたが、船に乗るとテンションも上がり、楽しそうにされていました。島に到着し、しばらく歩くと施設が見えてきました。昼食を済ませ、ここでの過ごし方の説明を受けました。生活棟の使い方、食事準備の仕方、魚釣りや貝の捕り方を教わりました。そのあとは早速、各グループで「一日の立案」を行いました。今回のキャンプでは時計を失くし、『時間』を自分達の感覚で過ごしていただきました。それぞれ、海の幸を探りに貝集めや魚釣りを行いました。やり方は聞きましたが、思うようにいきません。釣りが絡まったり、途中で切れてしまったりしました。貝も上手く捕れず、苦戦されていました。その中で、貝や魚がとれた時、誇らしげに喜んでおられました。獲れた魚や貝、支給された野菜などを使って何を作るか話し合い夕食作りに取り掛かりました。初めての調理なので、自身の役目が分からずウロウロされている方が沢山おられました。時間が分からないため、どのくらいかかったのか、これからどうすればいいのかが分からず、どのグループも混乱していました。入浴後に振り返りを行い、明日の活動に備えました。振り返りでは、一日の流れの確認と頑張ったところ、もっと頑張れたところを話し合いました。そして、それぞれの頑張りに対する「MVP」を決めました。



## 二日目：

昨日の経験を踏まえて、二日目は考えて機敏に動かれている様子が伺えました。一日をどう過ごすのかを立案し、それを元に動いていきます。朝食は支給されたパンを使ったメニューです。時間がわからないため、自分達の動きが早いのか、遅いのかかわからず、都度話し合い、後どれくらいで終わるのかを決めて動いていました。食後は昼食のために貝を獲りに行ったり、魚釣りに行ったり、お土産の貝殻を集めに行かれました。みんなが思っている時間と実際の時間に大きく時差が起っており、気が付けば昼食時間となりました。三日目の炊事なので、指示がなくてもどう動けばいいのかを各々感じ動かれていました。午後は「いかだレース」を行いました。職員さんから作り方を教えていただき、2グループに分かれて行いました。協力してロープワークをされている様子が沢山伺えました。声を掛け合い、手伝い、決められた時間内に見事を作り上げることが出来ました。いかだを海に浮かべ、レーススタートです。オールで漕ぎ進むのですが、なかなか上手に進みません。海に入り、バタ足でいかだを進めるメンバーもおられました。ゴールしたときには、どちらのいかだも壊れることなく無事でした。最後の夜も自炊です。いかだレースで得た肉をメインに料理をされ、久々のお肉の味に笑顔が溢れていました。最後の夜の振り返りでは、みんなじっくりと時間をかけ、深く話し合っていました。



## 三日目：

朝から荷物の片付けや使った部屋や場所の清掃とやる事が沢山ありました。今までの経験から出来ることを探し、想いのもと動いていました。朝食は最後の自炊です。あまり時間がない中でも時間を無駄にせず、楽しそうに調理されている姿から大きな成長を感じました。食後は借りた炊事器材をキレイに磨き洗い、施設から借りた物を返しに行きました。昼食は最初に最後の食堂利用でした。「食事を出してもらえ」ありがたさを全員感じながら食べました。食後、荷物を運び、船に乗り、島を出発しました。船内はまだ楽しそうにされているメンバーもおられれば、疲れから寝てしまわれている方もおられました。行きの気持ちと帰りの気持ちでは、『食』に対して、『普段の生活』に対しての想いに違いが起っていました。



## <キャンプ総括>

今回のキャンプで一番肝心な事は『食事』です。釣りや素潜り、貝拾いなど普段出来ないプログラムは全て食べるために行いました。もちろんほとんどのメンバーが初体験の為、上手いかず、苦戦されていました。そして捕る事の難しさから敬遠されました。それでも毎回自炊をしなければいけないため、どうすれば無駄なく、手早く出来るかを話し合っておられました。皆の気持ちに「食」に対する新しい考え方が生まれたように思えます。自分達で捕らえ、調理し、食べ、片付ける経験から、普段過ごしている中で『当たり前』に出てくる食事に『感謝』の気持ちを感じていただけたかな？と思います。いえしまから食事だけではなく、生きる事の難しさ、行動の責任など沢山の学びを与えられました。(竹中 哲郎)